(5)今後の生涯学習・社会教育事業について

グループワーク③　次世代の人材育成について　　発言要旨

〇次世代を担う人材の育成　「『YY ボランティア』の今後の在り方について」

藤川委員

- 他者と関係を作って生きることが豊かさであるという観点から、ボランティア活動は良い経験になるのでずっと続けて欲しい。
- 児童生徒に対して、最初の一歩は、どのような形でもよい。体験してみることが大切である。
- 「気軽に参加できる」、「地域とのナナメの関係がある」、「教員からの熱いメッセージ」などの要素は必要である。

大村委員

- ボランティアサークルが盛んになったところ、縮小していったところの理由を考えてみると、以前は公民館の方が進めていた。今は自主的に好きなことをやっていくという発想に変わってきていて、探究学習の延長・実践の場にもなっているのではないか。

菅原委員

- ボランティア活動の自走は中高生にとってはハードルが高い。最初から何かやりたいことを持っている子どもは少ない。その時にいるメンバーで何ができるかに合わせていくのがよいと考えている
- 活動に関わった回数が多い人ほど、愛着やもっとこういう風にしたいという考えを持っている。郷土愛も同じだと思う。

小関委員

- 社会教育主事資格を持っている先生の授業は、創造性があり、面白い場合が多い。
- 中学校は部活動があるため、地域の活動に参加しにくいという現状がある。自分の学校では、部活動が休みの日に地域に出向いてボランティア活動を行っている。
- 部活動の地域移行に伴って、地域でボランティア活動を積極的に行う生徒がいてもよいと思う。ただ、活動をコーディネートしたりアドバイスしたりしてくれる大人が必要である。
- 全国学力・学習状況調査や本校の調査をみると、子どもたちは地域や社会のため何かをしたいと考えている生徒は多い。しかし、その機会がなく、できないでいるように感じる。部活動の地域移行は、生徒が地域等で活動するチャンスにもなると思う。こうしたことを推進していくうえで、社会教育の役割は大きくなると考えている。

〇郷土愛について

藤川委員

- 「山形に居続けること」「山形から離れても、山形を思い続けること」どんな形であれ、郷土への愛着であると思う。一方で、遊佐の子どもや先生に聞くと、勉強へのモチベーションもない、したいこともないという現状もある。そもそも「自分の豊かさとは？」「自分の理想」等を自分自身で考える機会も少ない。誰かの言った「べき論」に流されているように感じる。自分の生き方を考える体験や機会をつくっていくことが必要だと考える。